

●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシア神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 3

盗まれた神剣伝説

くさなぎの
剣が開く
夢浪漫
開かずの門に
思い馳せつつ



二人を結婚へと導く

どちらも幸せの剣

今回は、三種の神器の一つであり、熱田神宮に祀られている草薙の剣が、なんと盗まれたことがあったという伝説です。天智天皇7年(668年)、新羅(今の韓国)の僧・道行が熱田神宮から草薙剣を盗み出したのです。

草薙の剣のルーツを辿ると、日本神話の時代までさかのぼります。素戔嗚尊が八岐大蛇を退治した時、その尾から神剣を得たといわれます。八岐大蛇がいるところには、いつも黒い雲が立ちこめていたといふことから、この剣は「天叢雲の剣」と呼ばれました。

その神剣を父・景行天皇の妹、つまり叔母である倭姫命から授けられた日本武尊は、尾張に入り、水上の里(現在の緑区大高町)で尾張氏の建稲種命の妹である宮貴媛命に出会い、二人は恋に落ちます。

そして、東征を終えて帰ってきた時には結婚しようとして、東国へ向かったのです。日本武尊は草を薙ぎはらって難を逃れ、見事に東征を為し遂げました。そのことからこの神剣は「草薙の剣」と命名されたのです。

ギリシア神話で剣といえば、商売の神・ヘルメスから譲り

受けた剣でメドゥーサを退治する「ペルセウスの冒険」が有名です。ペルセウスは、王様からヘビ怪物「メドゥーサ」の退治を命ぜられ、いざ出発します。しかし、メドゥーサの顔を直接見た人は石になってしまうので、ペルセウスはメドゥーサを退治する際、盾に写して剣で切り落とし、その首を持ち帰ります。その時、メドゥーサの血から生まれたのがペガサスです。

その帰り道、ペルセウスは、エチオピアの海岸で岩に鎖でつながれたまま怪物の餌食になろうとしている王女アンドロメダをみつけます。そこで、ヘルメスの剣とメドゥーサの首を使って、怪物を退治して、アンドロメダとめでたく結婚するという物語です。

草薙の剣もヘルメスの剣も、どちらも二人を結婚へと導く「幸せの剣」

ですが、その後の展開は日本神話とギリシア神話では、大きく違います。詳しくは次回紹介します。



逃げ切れずあえなく御用 伝説を今に伝える清雪門

さて、「盗まれた神剣伝説」によると、新羅では国王が隣国の百済を攻めようとし、その際、日本が百済に援軍を送ると都合が悪いと考えて、まず日本の国が乱れるように策略を考えました。それには武の神様である熱田神宮の神剣を盗んで混乱させるのがよからうということになり、道行にそれを命じたのです。

「日本国の尾張にある熱田神宮の草薙の剣は、もともと新羅の国の大切な剣だ。お前は日本国に渡ってひそかにその剣を奪って来い。成功すれば褒美は望むままにとらせるぞ」と国王から命を受けて、道行は日本に潜入します。そして、熱田神宮で百日間のお籠りをするといい、神社の中で毎日お参りをしました。その間に、密かに神殿に忍び込み、神剣を盗み、本宮の北門であった清雪門を通じて逃げ出し、とうとう九州まで逃げのびたのです。

神剣がなくなったことに気づいた熱田神宮では、大あわてになり、「新羅から来たあの僧が怪しい」ということで、数人の神官が道行の後を追いかけていました。しかし、神官たちが九州に着いた時には、道行はすでに小舟に乗って海へ漕ぎ出していました。「海を渡れば新羅だ。これで褒美は思いのままだ」と道行はほくそ笑んでいましたが、好事魔多し。暴風雨に遭い目的は果たせず、漂着して捕らえられてしまったのです。

取り戻された神剣は、しばらくは皇居に保管されましたが、朱鳥元年(686年)、天武天皇の御病氣に際し占ったとこ

3rd Letter

▼閉ざされたままの清雪門が今もひっそり建っている。



ろ草薙剣の祟りであるとされたので、すぐ熱田神宮に返されました。しかし、その甲斐なく同年にこの世を去り、持続天皇が弓引き継いで女帝となっています。

ちなみに、道行が逃げた清雪門は、それ以来「不吉の門」として閉ざされたままで「不開門」とも呼ばれています。中世になって別宮・八劍宮の北に移された後、現在は摂社・南新宮社の西側に移築され、ひっそりと建っています。

前述した通り、清雪門は当時、本宮の北門でしたが、ちなみに、正門、東門、西門には、海蔵門、春殿門、鎮皇門があり、清雪門を加えて「四強の神門」と呼ばれて、神城の四方を固めていたが、他の三門は、いずれも昭和20年の戦災で焼失しています。

二度と開けられることのない、伝説の門の前に佇み、往時に思いを巡らせてみると、草薙の剣にまつわる壮大な夢浪漫が蘇るはずです。しばし時を忘れて、時間旅行を。



今回は、白鳥御陵に伝わる「日本武尊の白鳥伝説」をお送りします。お楽しみに。

■写真/ Kiyoshi K ■イラスト/ Rei ■取材文/ Icarus